災害からあなたと家族を守る
命のパスポート
シリーズ113

災害時「うちは大丈夫」の目印は黄色いハンカチ作戦！

箕面市では、迅速な安否確認をするために「黄色いハンカチ作戦」を進めています！

平成30年6月18日（月）、大阪府北部を震源とする震度6弱の地震が発生し、市内では建物が半壊するなどの被害が発生しました。一方、地震発生直後の混乱の中、「黄色いハンカチ作戦」を行った自治会※では、迅速な安否確認をしていただきました。

大規模災害時には、隣近所の人たちで素早く安否確認を行い、救助が必要な人を早く見つけることが、命を守るために非常に重要です。災害時の被害を最小限に抑えるため、今後とも「黄色いハンカチ作戦」にご協力をよろしくお願いします。

※自治会にはマンション管理組合を含みます。

自治会にインタビュー
私たちは「黄色いハンカチ作戦」を進めています！

●箕面如意谷住宅管理組合 理事長 泉 正憲さん

如意谷住宅は、5階建ての建物が21棟集まる大規模な団地です。全610戸と数が多いため、いざというときに短時間で安否確認ができるよう話し合い、黄色いタオルを全戸に配布して、震度5弱以上の地震が発生した場合は、北側の窓に掲げるようにしています。

今年の全市一斉総合防災訓練では、各棟の防災担当者が、外から全ての階の黄色い目印を確認。事前に作成していたチェックリストに掲出状況を書き込み、管理事務所に報告することで、迅速に安否確認を行うことができました。今後もスムーズに安否確認ができるよう、定期的に防災訓練を行っていきます。

●桜第三自治会 会長 浅田 哲司さん

災害時、黄色いハンカチ作戦をスムーズに行うことができるよう、全180戸の「安否確認分担表」を作成し、日頃から訓練を実施しています。今年1月17日の全市一斉総合防災訓練では7割以上のお宅で黄色いハンカチが掲げられ、迅速に安否確認を行うことができました。

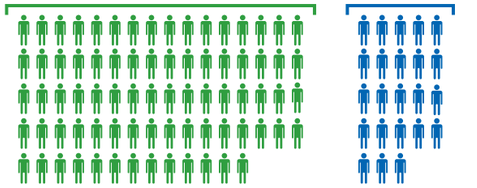
また、いざというときに、冷静に行動できるよう、発災時にするべきことをまとめたプリントを独自に作成してみなさんに配布し、防災訓練などを通して内容を確認しています。

阪神・淡路大震災では8割近いかたが地域の絆で命を救われました

地震などの災害が発生したとき、公的な機関だけで全ての命を救うことはできません。

阪神・淡路大震災では、消防や警察などに救助されたかたは2割程度しかおらず、約8割のかたは、自治会など地域のかたに救助されました。

阪神・淡路大震災で救助された人の救助要因



隣近所の素早い安否確認が、多くの命を救うことになります！

左ページで「黄色いハンカチ作戦」の流れを確認してください！

黄色いハンカチ作戦の流れ

地震発生！揺れが収まったら…

まず 靴をはいて家の中を点検し、二次災害を予防してください！

1 家の中でも靴をはく

2 出口を確保して…

3 家にいる家族の無事を確かめる

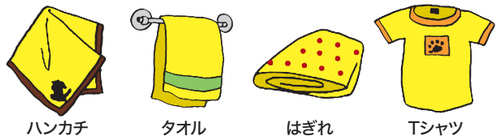
4 余震で落ちそうなものを床に下ろす

次に 家にいる家族が全員無事だったら 黄色いハンカチ作戦！

大地震の後、家にいる家族が全員無事だったら、黄色いハンカチ（大きく目立つ黄色い布）を玄関先などに掲げてください！

災害時、ご近所さんに「うちは大丈夫！」と知らせる目印です！

大きく目立つ黄色い布なら何でもOK！



黄色いハンカチ作戦を行わないと…

黄色いハンカチがないと、1軒1軒「ピンポン」して安否確認をするので、とても時間がかかります。応答があるまで無事かどうかも分かりません…

安否確認に時間がかかり、助かる命を救えません！

迅速な安否確認が助かる命を救います！

迅速な安否確認のために、大きく目立つ黄色い布を各ご家庭で必ず用意してください！